

<今日の説教のポイント ルカによる福音書1章26～56節>
救い主誕生のために神様が用意された恵みをさらに追いましょう。

①神様は、エリサベトをマリアのために用意して下さい！

イエス様の誕生と何の関係もないと思われたルカ福音書の始まり。しかし、この箇所で繋がるのです！ 受胎告知を告げられたマリアが、「どうして、そのようなことがありえましょうか。わたしは男の人を知りませんのに」(34)と言ったのに対して、天使は、身ごもるはずのないエリサベトも身ごもっている、「神にできないことは何一つない」(35-37)と告げたので、マリアはエリサベトに会いに行き、神様の恵みを二人で喜び合ったのです。

②ザカリアとマリアの違いはあるの？ ないの？

ここで一つ、不公平というか、天使の御告げに対するザカリアとマリアの反応は同じように思えるのに、ザカリアだけ口が利けなくされたのはかわいそうだと思うかもしれません。しかし、罰と思われることの中に神様の恵みが隠されている場合があることを先週見ました。ザカリアは「しるし」を求め(18)、それがこういう形で与えられ、ザカリアもそう思ったであろうことを。

しかしまた、マリアがエリサベトを見て、それで信じたというのでもありません。マリアは天使の言葉を、「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように」(38)と言って受け入れていますし、エリサベトも、「**主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですでしょう**」(45)と言っています。私たちも、この神様を信じる者になるように招かれているのです。

③全ては、聖書から教えられる憐れみに富む神様から出ている！

それはマリアの賛歌に示されています。聖書の神様の「**憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及ぶ**」(50)のであり、それは神様がかつてアブラハムにされた約束、「**地上の氏族はすべてあなたによって祝福に入る**」(創世記12:3)から来ているのです。全ての人を愛しておられることを、身分の低いマリアから独り子を産ませられて示された神様(48)。この独り子イエス・キリストを見るときに、神様は信じるに足る方であることを知らされるのです！